

## 第4章 史跡下野谷遺跡の本質的価値

### 1 史跡下野谷遺跡の本質的価値

史跡下野谷遺跡は、縄文時代中期に地域の拠点となった大集落遺跡である。縄文時代中期は、安定した生活の中で豊かな文化が育まれた縄文時代の盛行期に当たり、史跡下野谷遺跡はその時期の集落遺跡を代表する遺跡として、縄文文化や人類史の研究には欠かすことができない。

都心部に残された、自然に育まれた縄文のムラである史跡下野谷遺跡のもつ、事実から導きだされる普遍的な価値である、本質的な価値は大きく以下の5点にまとめられる。

#### (1) 典型的な構造が明らかな大規模環状集落

史跡下野谷遺跡の集落は、直径が150mを超え、中央には東西70m、南北50mの範囲で墓と考えられる土坑群が密集し、それを取り囲むように竪穴住居が配置されている。さらに、土坑群と住居の分布の境界近くには、掘立柱建物群になると考えられる柱穴群が半月形にあり、建物が土坑群に沿った形で配置されている。

この構造は、縄文時代中期に関東甲信越に広く分布する環状集落の典型であり、規模も大きい。

#### (2) 縄文時代中期における南関東最大級の拠点集落

史跡下野谷遺跡の集落の存続期間は土器型式から、中期中葉の勝坂式から中期末葉の加曾利E4式を主体とし、中期前葉の五領ヶ台式から後期初頭の称名寺式まで約1,000年にわたり、連続している。

また、土器、石器などの遺物も大量に出土しており、遠隔地との交流を示す遺物も多い。

この様相は、地域の拠点となる集落であることを示している。

史跡下野谷遺跡は、武蔵野台地、多摩丘陵といった関東南部の中規模河川ごとに分布する大規模な拠点集落の中でも規模・内容ともに傑出した存在である。

#### (3) 縄文集落の立地を明瞭に示す

遺跡は、武蔵野台地の中央部を貫流する石神井川の右岸台地上の先端部に位置する。台地の中央には浅い谷が入り、台地を東西に分けている。また、崖線下には、現在の石神井川の流れを挟み、縄文時代には沼地状の湿地を呈していたと考えられる低地が広がっている。

台地と低地との高低差がはっきりしており、水場近くの日当たりの良い高台といった縄文時代の集落立地を明瞭に示しているとともに、台地上の谷地形は東西の環状集落を分けた要因と考え

られる。また、崖線に茂る緑は、縄文時代の豊かな自然環境を想起させる。

このように、史跡下野谷遺跡を通して、縄文時代の集落の立地と周囲の景観とを理解することができる。

#### (4) 隣接する東集落と双環状集落を構成する

---

史跡下野谷遺跡と谷を挟んだ東側には、東西 300m、南北 180mの範囲でほぼ同時期の類似した構造を持つ環状集落が隣接している。

両集落は本来、史跡下野谷遺跡（西集落）と東集落という関係性を有しており、大規模拠点集落に特徴的にみることのできる双環状集落を構成していると評価できる。東集落域に関しては、遺存状態こそ西集落に劣るものの、規模は西集落を凌ぐものであり、両集落の関係は、史跡下野谷遺跡の拠点集落としての特徴をより際立たせている。

#### (5) 都市部において良好な遺存状態を保つ大規模集落遺跡

---

史跡下野谷遺跡は、環状集落のほぼ全域が良好に保存されている。集落遺跡の多くは、開発に伴い実施される発掘調査などが実施されたことにより、その規模や内容が明らかになるため、集落全域の保存と規模や内容の確認・分析が両立できることは極めて稀である。史跡下野谷遺跡は、市民の保護意識から第1次調査が立案され、当初から保存を視野に入れた調査がなされてきたこと、隣接して拠点集落の性格を補完する下野谷遺跡東集落があり、その調査結果により、史跡の内容理解が促進されてきたことなどから、集落を保護しながら史跡の分析が可能であるという恵まれた状況にあった。

特に開発の著しい都市部において、このように良好な遺存状態を保つ集落遺跡が存在することは稀有なことであり、縄文時代の集落研究にとって貴重な遺跡であるといえる。

## 2 史跡下野谷遺跡の本質的価値を構成する要素

下野谷遺跡は、全体では約 134,000 m<sup>2</sup>の広さを有する遺跡であり、遺跡の状況から複数の階層に分かれる性格を有している。

また、史跡を構成するさまざまな要素には、史跡下野谷遺跡の持つ本質的価値を構成する要素とそれ以外の要素とに分類されることから、以下のとおり階層と要素の分類を示す。

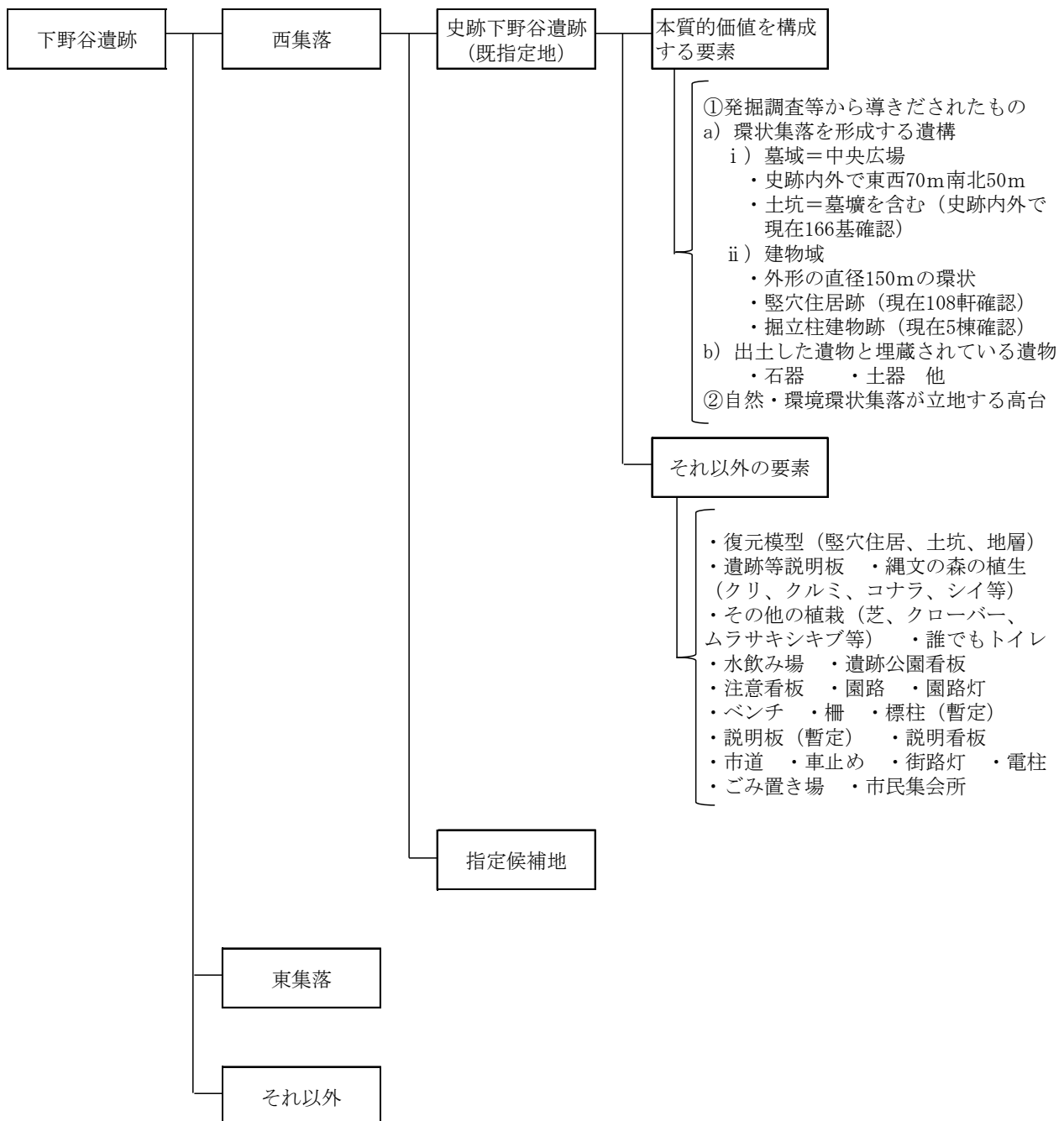


図 32 史跡を構成する諸要素

### 3 本質的価値をとりまく多様な価値とそれらを構成する要素

---

史跡下野谷遺跡には、史跡の持つ本質的価値から導き出される歴史文化に関わる学術的価値や現代的価値など多様な価値がある。これらの価値を高めていくことで目指す将来像につながる。

本質的価値から導き出される歴史文化に関わる学術的価値は、今後の調査研究の推進により深化させることが重要である。また、現代的な価値は、縄文時代以降現代までの間に史跡に付加されてきた価値であり、活用、整備などを通して今後も史跡とより良く共存し、地域や人びとに有益に還元されること必要がある。

#### (1) 本質的価値から導き出される歴史文化に関わる学術的価値とそれを構成する要素

---

##### 【価値】

- ・人類史における縄文文化、特に、狩猟採集を生業の基盤とした安定した定住社会の解明
- ・自然と共生した持続可能な社会システムの解明
- ・縄文集落の盛衰と社会構造の変化の解明
- ・広域な交流、縄文ネットワークなど他の集団や資源との関り方の解明
- ・縄文時代の植物利用と管理栽培などの新たな生業形態の解明
- ・縄文の技や芸術的な土器 など

##### 【要素】

- ・他系統土器や遠方産石材
- ・土器に残る植物等の圧痕や炭化種子・炭化材
- ・下野谷遺跡のこれまでの研究成果 など

#### (2) 現代的な価値とそれらを構成する要素・支える要素

---

##### 【価値】

- ・住宅街において安全・安心でみどり豊かなくつろぎの場であること
- ・縄文の知恵を現代社会につなぎ学校教育や生涯学習に役立つこと
- ・現代に続く市の歴史文化を学ぶことができる場であること
- ・アクセスが良く、人が集いやすく、都市部において縄文のムラや文化を感じる空間を提供できること
- ・まちの誇りを醸成することができ、まちのにぎわいを生む場であること
- ・市民により守り育てられてきたこと
- ・史跡を核とした人や社会のネットワークづくりに資すること
- ・史跡の保護が生涯学習などの素材として活用され自己実現や成長につながること など

##### 【要素】

- ・みどり、広場
- ・遺跡を開設する説明板、ベンチ、園路 など
- ・学校・大学・研究機関
- ・地元商店会・自治会・協力市民団体やボランティア など